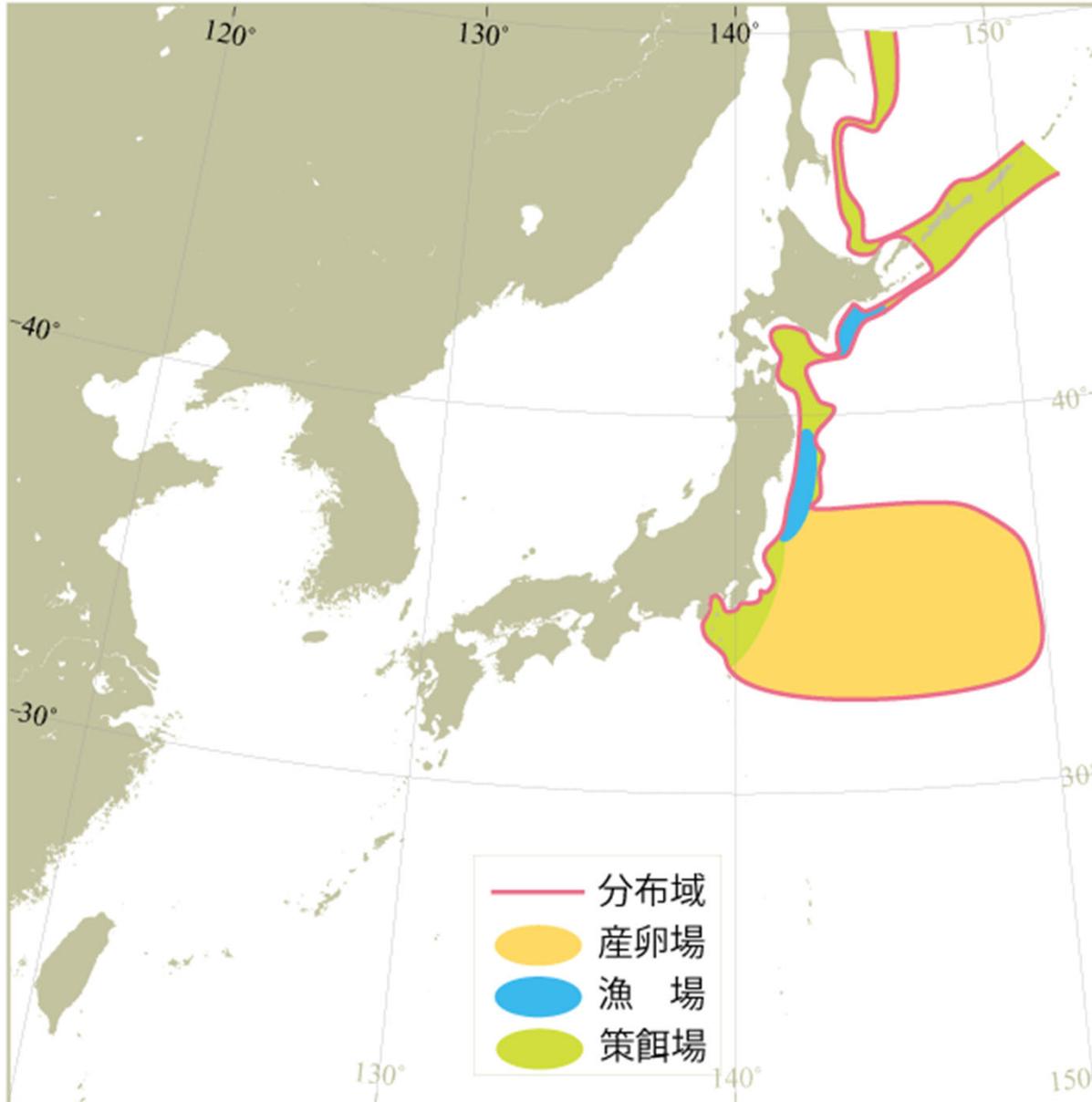




# イトヒキダラ太平洋系群 令和6年度資源評価結果

# 生物学的特性

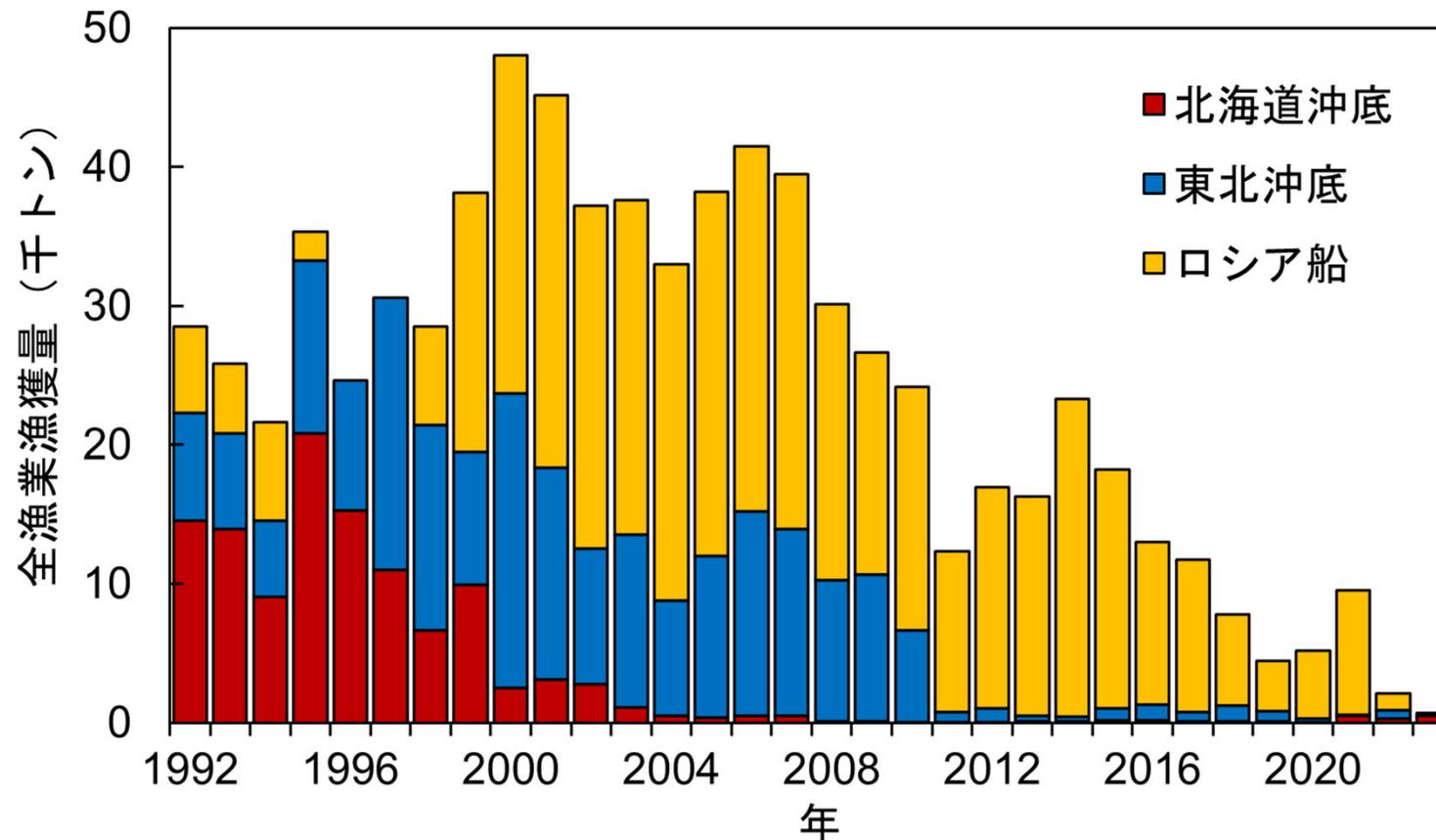


## 生物学的特性

- 寿命：観察された最高齢は雄18歳、雌24歳
- 成熟開始年齢：雄5歳、雌7歳
- 産卵期・産卵場：2～4月に関東・東北地方南部の太平洋沿岸から東方の外洋域（黒潮～黒潮続流域）で産卵する
- 食性：オキアミ類やカイアシ類などの甲殻類、ヤムシ類、ハダカイワシ科魚類など
- 捕食者：ムネダラなどの大型ソコダラ類およびオットセイやマッコウクジラ、ツチクジラなどの海産哺乳類

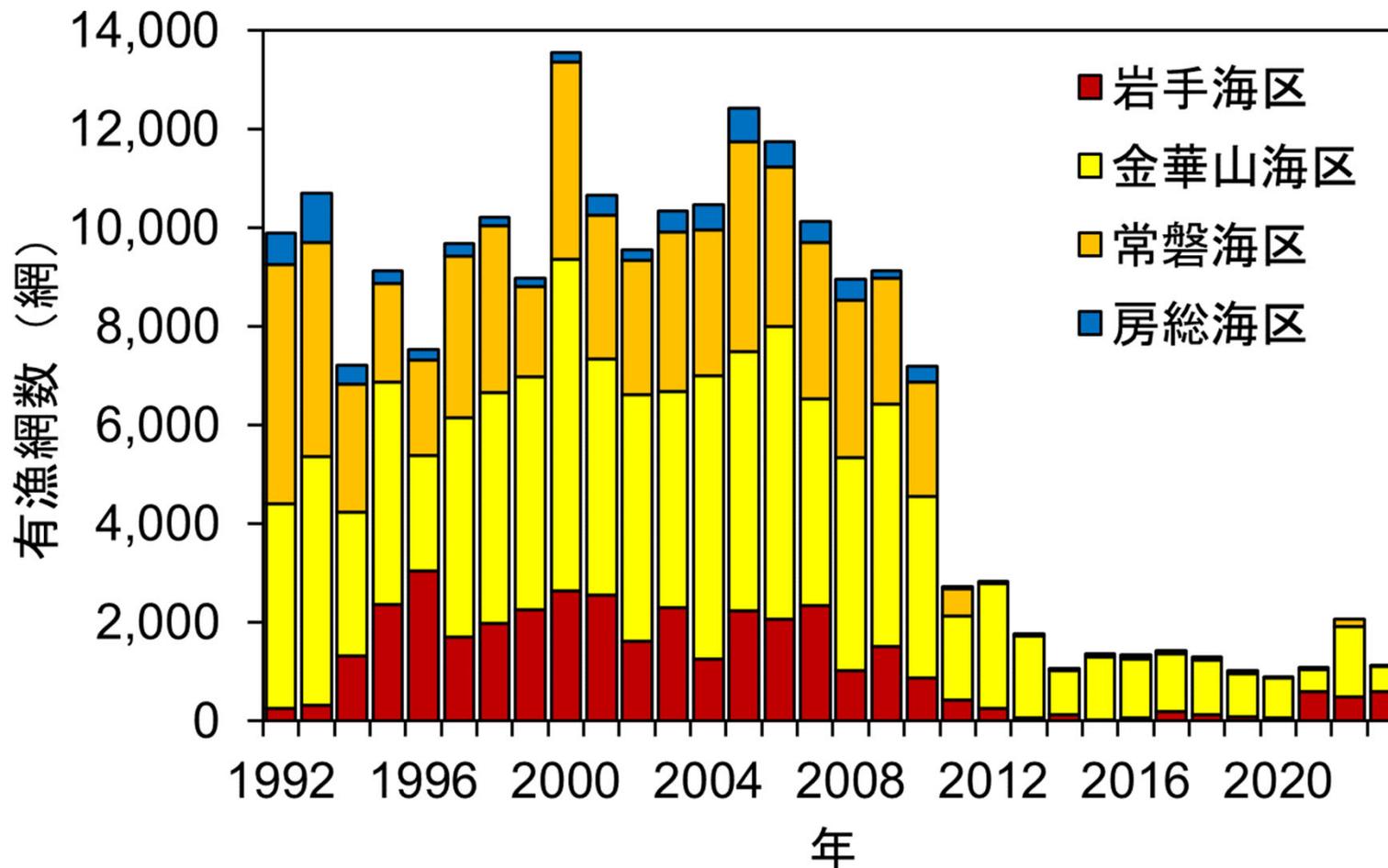
- 主漁場は東北・北海道の太平洋沿岸

# 漁獲の動向①



- 日本漁船の主漁法は沖合底びき網漁業（沖底）
- 北海道沖底の漁獲量は1995年をピークに急激に減少
- 東北沖底の漁獲量は東日本大震災（以下「震災」）の後大幅に減少
- ロシア船の漁獲量は2015年以降減少
- 2023年の漁獲量：672トン 前年より減少

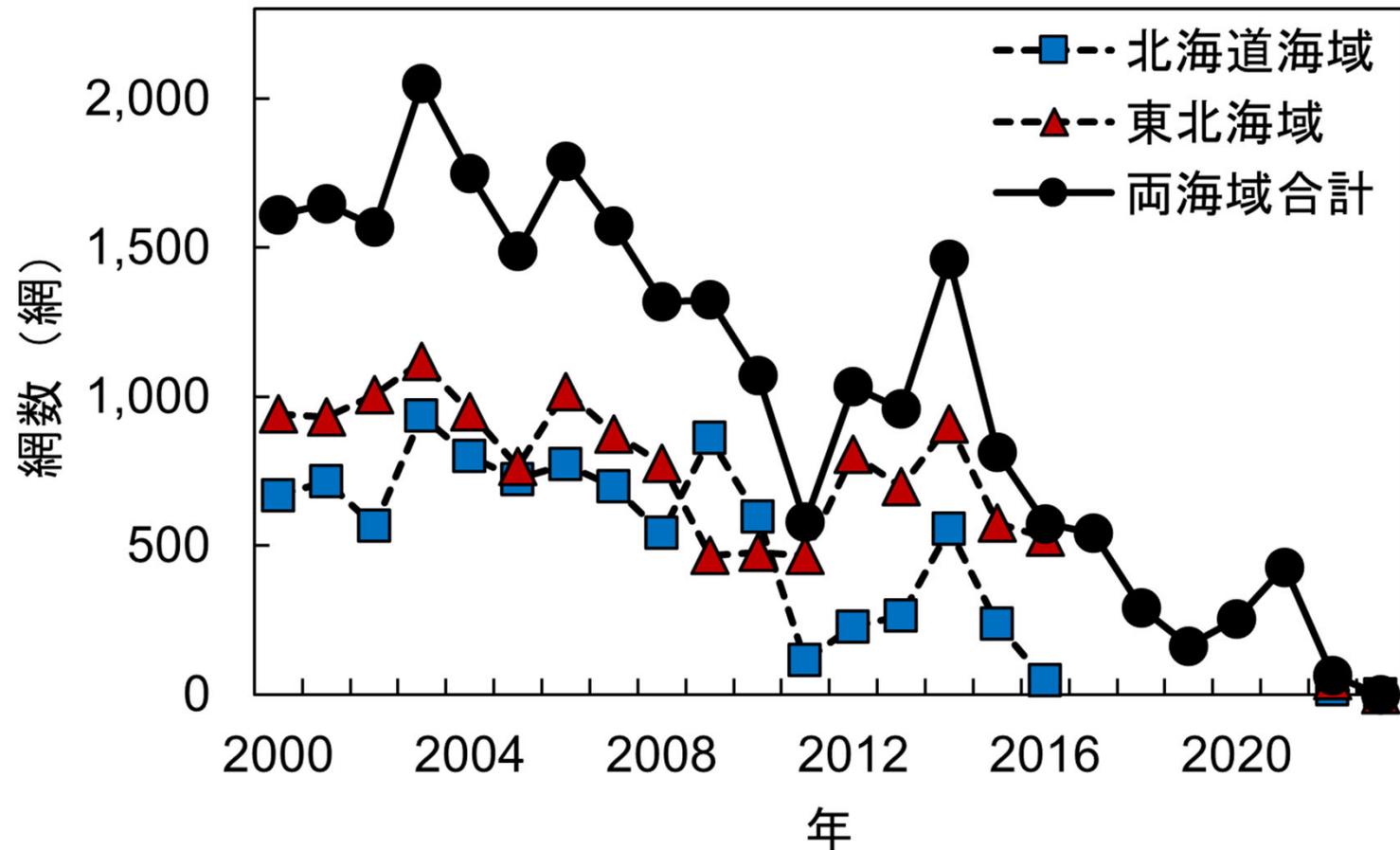
# 漁獲の動向②



- 東北沖底の漁獲の大部分は金華山海区および常磐海区
- 震災ですり身加工場が被災して処理能力が低下、これに伴い東北沖底船の有漁網数は大幅に減少
- 2023年の金華山・常磐海区の東北沖底有漁網数：515網

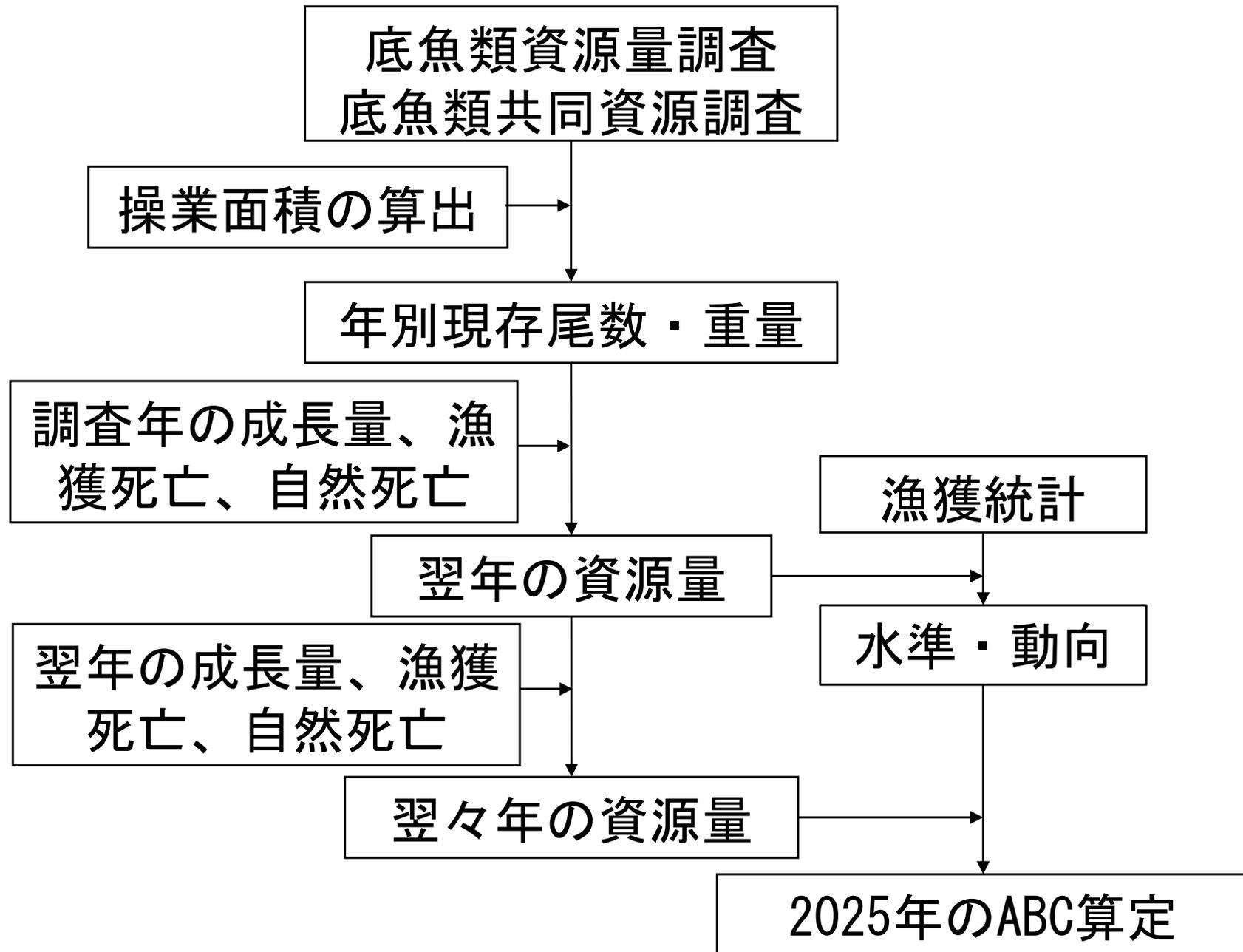
※有漁網数：漁船ごとのイトヒキダラが漁獲された日の網数の合計

# 漁獲の動向③



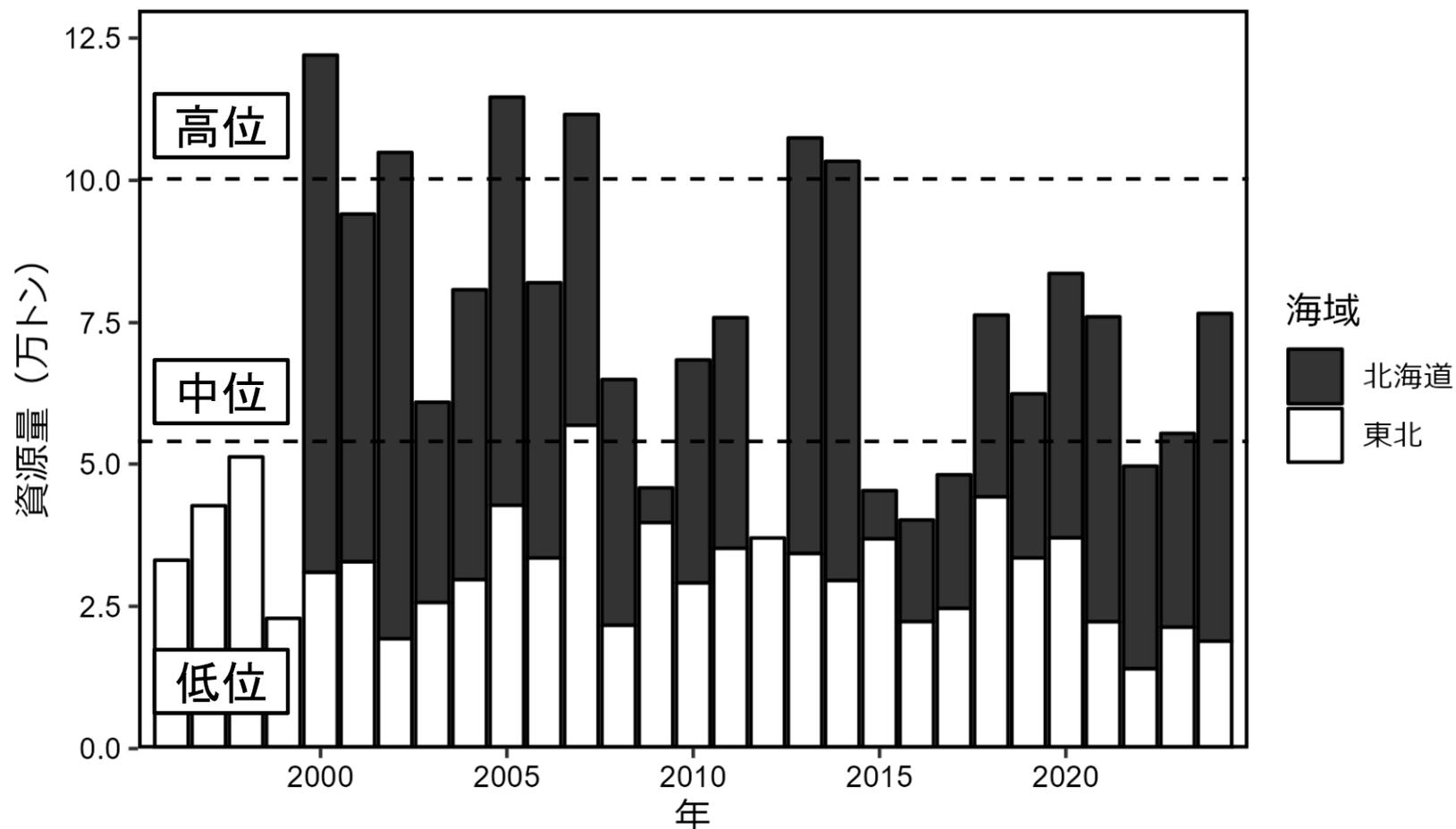
- ロシア船の漁法は中層トロールのみ
- ロシア船の努力量は2012～2014年に増加後、2015年から減少
- 2017～2021年は北海道海域と東北海域を区別した情報が得られていない
- 2023年の網数は0網

# 資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 資源の動向



※水準区分 低位／中位：平均（77,113トン）の70%、中位／高位：平均の130%  
（採集効率を0.283として推定した北海道～東北の資源量推定値で水準判断）

- 北海道および東北沖での着底トロール調査結果から判断
- 資源水準：2024年の資源量は76,618トンであり「中位」
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の資源量の推移から「横ばい」

# 資源評価のまとめ

- イトヒキダラ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「横ばい」
- 着底トロール調査結果に基づいて資源状態を判断
- 漁獲圧が大幅に低下しているが資源回復には時間を要する

## 2025年ABC

管理基準	Target/Limit	2025年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの 増減%)
1.0・F40%SPR	Target	67	9.8	0.109 (+62.9%)
	Limit	83	12.1	0.136 (+103.6%)

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の1-3)-(2)により、 $F_{limit}=F40\%SPR \cdot \beta_1$ で計算
- $F_{target}=0.8 \times F_{limit}$
- $\beta_1: 1.0$  (中位水準で若齢魚への漁獲圧が低いことを考慮)